

ブルキナファソ

【国名】

- 1984年、オート・ヴォルタ共和国から国名を変更。「ブルキナ」とはモレ語で「高潔な人」、「ファソ」はジュラ語で「祖国」を意味する。

【国旗】

赤：大地

緑：農業の繁栄

黄色の星：将来への希望



【国土】

- アフリカ大陸西部に位置し、周囲を6か国に囲まれた内陸国。面積は日本の約70%（約27.4万km²）。首都はワガドゥグ。人口は2,090万人(2020)。



【宗教・言語】

- イスラム教、キリスト教、伝統宗教。
- モシ族、ジュラ族、グルマンチェ族など60の部族が存在すると言われる。
- 公用語は仏語。

【我が国との政治関係】

- 我が国は1960年の独立と同時に承認。ブルキナファソは1962年に仏語圏アフリカ諸国で初めて、東京に大使館を設置。我が国は2009年に大使館を設置。

【経済】

- 労働人口の約80%が農業に従事。主な農産物は、綿花、ゴマ、イモ類、豆類、トウモロコシなど。綿は、オーガニックの栽培も拡大しつつあり、その質の高さが評判となり、パリのモード界でも使用されている。

また、近年は金鉱山の開発に力を入れているが治安の問題に直面している。

(ゴマ)

- 日本のゴマの輸入量第2位(2020)がブルキナファソ産であったが減少傾向にある。ゴマは輸出総額の第3位を占めるほど主要な輸出作物。日本は2014年10月以降、ゴマ生産拡大のための技術協力を実施している。

(オートバイ)

- 同国は、「アフリカにおける自動二輪の天国」と称されるほど、オートバイが主な交通手段として一般に普及しており、中でもヤマハの人気は絶大である。

【文化】

(映画祭)

- 映画が有名であり、2年に1度開催される「ワガドゥグ全アフリカ映画祭

(FESPACO)」には世界各国からの映画関係者が集まる。同映画祭開催が刺激となって、近年同国から優秀な映画監督が複数輩出されている。2019年2月には、篠田伸二監督の「シンプルギフト」が上映され、好評を博した。2021年10月にはクラベール・ヤメオゴ氏（日本在住）が短編アニメ「緑の絨毯」を上映した。



FESPACO 会場



篠田伸二監督の挨拶

(西アフリカ最大の工芸見本市)

- 首都ワガドゥグでは2年に1度「ワガドゥグ工芸国際見本市(SIAO)」が開催される。アフリカ、アジア諸国が参加し、数十万人の入場者、30か国以上の出展者で活況を呈する。一般的な工芸製品の紹介のほか、

アフリカ人のデザイナーの作品をファッション・ショーで宣伝するなど趣向を凝らしている。2018 年は日本大使館及び JICA 事務所が出展し、書道、茶道のワークショップを実施。

(建築)

- 2022 年、ドイツ在住のフランス・ケレ氏は、アフリカ人として初めてプリツカー賞（建築のノーベル賞）を受賞した。ブルキナファソ国民議会庁舎の建設も計画中。

【スポーツ】

- 国民に最も人気のあるスポーツはサッカー。2022 年のアフリカ・ネーションズ・カップ（CAN）では、4 位となった。
- 同国のラグビー連盟は 2020 年に世界連盟に加盟したばかりであるが、2021 年には 2023 年ラグビーW杯のアフリカ地区予選を勝ち抜き、8 位で出場権を獲得した。

- 2021 年の東京五輪では陸上男子三段跳びのユーグ・ファブリス・ザンゴ選手が同国史上初となる銅メダルを獲得した。また2022 年の陸上アフリカ大会では、同男子三段跳びのザンゴ選手と女子走り幅跳びのマルテ・コアラ選手が共に1位に輝いた。
- 柔道や空手を始めとする武道人気も高い。空手及び柔道日本大使杯が、大使館と各連盟の共催でこれまでに7回開催された。競技人口は合計で約7,000人といわれる。2021年の東京五輪には柔道73キロ超級に1名が出場した。



日本大使杯

- 2008 年から青年海外協力隊が教えた野球が親しまれている。2015 年からプロ野球独立リーグの高知ファイティングドッグスにサンホ・ラシィナ選手が所属。2021年には同チームのキャプテンに任命された。

- 初代野球隊員の出合裕太氏は、ブルキナファソ代表チームの監督を務めており、2019年3月の東京五輪西アフリカ予選を1位で通過。続くアフリカ大陸予選では4位に終わり惜しくも五輪出場には至らなかったが、西アフリカでは野球強豪国としての地位を確立している。

【食事】

(トーとソース)

- 代表的主食は、トウモロコシ、粟、稗の粉を水で溶かし、練って丸めた「トー」で、そばがきに類似。バオバブの葉、オクラ等を使ったソースと食べる。

(居酒屋文化「マキ」)

- 日暮れが近づくと、広い空き地にたくさんの椅子が並べられ、近くの屋台では鶏肉や羊肉、串刺しの肉が焼かれ、夜遅くまで野外の飲み屋「マキ」となる。「マキ」は至る所であり、男女の区別なく、気軽に食事

ができる場所として多くの人で賑わう。地鶏の炭火焼きやにんにく鶏は同国屈指の人気ごはん。

(果物)

- 12月下旬から3月にかけてイチゴが旬を迎え、近隣国への輸出も行っている。また、3月から6月はマンゴーが旬となり、市場で売られるほか、ドライマンゴーへの加工が行われる。どちらも日本産の高級品に匹敵するほどの風味を持つものもある。

【特産品】

(国産織物「ファソ・ダンファニ」)

- 同国産綿花を利用した織物生地、「ファソ・ダンファニ」を用いたオーダーメイドの衣装は、ブルキナファソ人が公式の場で男女を問わずよく着用するほか、お土産店や日用品店で同生地を使った小物やテーブルクロス等が販売されている。



女性ダンファニ職人の
アンテナショップ



織機による手織り作業

(シアバタークリーム)

- 先進国においてスキンケア製品の原料に使われるシアバター（シアの木の種から採れる油脂）を生産。同国産は、周辺国産のものよりも上質であることで知られており、有名ブランドも同国産の原料を使用。当地では石鹸やクリーム等のスキンケア製品に加工されるほか、調理の際に油脂としても使用されている。

- また、当国南部の現地 NGO にて、青年海外協力隊員が、製品のパッケージアイデアや販売促進のための活動を行い首都でもお土産として販売されている。

(了)